



栃木医療センター 広報誌

No.50 2022 July

理念
信頼 貢献 協働



Contents

- 病棟紹介（地域包括ケア病棟） ……1・2
- 診療科紹介（放射線科） ……3・4
- 診療科紹介（臨床検査科・病理診断科） ……5
- 連携医紹介（医療法人社団 宮川内科） ……6
- 平日特別メニューについて／
交通のご案内 ……裏表紙

地域包括ケア病棟 開始のご案内

内科副部長 矢吹 拓

栃木医療センターでは2022年7月から地域包括ケア病棟を開棟します。地域包括ケア病棟は、急性期治療を経て病状が安定してきている患者さんに対して自宅や介護施設等への復帰支援に向けたサポートを行う病棟です。栃木医療センターではこれまでも様々な形で退院支援を行ってきましたが、病状や状況によっては、より長い期間の調整が必要な方も少なくありませんでした。特に高齢化が進み、介護療養体制の多様化が進む中で、リハビリや在宅サービス調整など多職種での多様できめ細やかな退院支援が必要になっています。キーワードは「帰りたいを実現するチーム」。病院から自宅や施設などに復帰する際に、十分な準備や調整を行って復帰できるように支援していきます。

これまで内科の急性期病棟だった4階病棟を地域包括ケア病棟とし、専属の総合診療医・看護師・退院支援看護師・リハビリ・MSW・薬剤師など多職種で連携しています。摂食・嚥下サポートや認知症ケア、ポリファーマシー対策やせん妄予防など、これから病棟として取り組みたいことがたくさんあります。既に4月から試験的に病棟を開始していますが、少しずつこれまでの急性期医療とは違った手応えを感じているところです。

特に在宅医療・介護との連携は強化していきたいと考えています。現在、栃木医療センターは在宅療養後方支援病院として、ご自宅・施設で在宅療養を受けている患者さんの急変・増悪時に、24時間いつでも救急診療・入院診療の対応ができる体制を整え、在宅医療機関の支援の役割を担っています。また、レスパイトケアが必要になるような医療依存度の高い患者さんの受け入れにも対応しています。今後、個別の退院前カンファレンスや退院前後訪問などを通して、地域の医療機関や介護福祉サービスの皆様と更に連携を深めていきたいと思っています。

始まったばかりの地域包括ケア病棟ですが、地域の皆様のお役に立てる様に少しずつ活動を進めていきたいと思えます。ご不明な点やお聞きになりたいことがあれば是非遠慮無くお聞き下さい。それではどうぞ宜しくお願い致します。

地域包括ケア病棟は、急性期治療を終え、病状が安定した患者さん、または退院後の生活に不安がある患者さんに対して、在宅復帰に向けた診療、看護、リハビリテーションを行い、安心して退院していただけるように支援する病棟です。専属の医師、看護師、リハビリスタッフ、退院支援部門スタッフなどで患者さんやご家族の意思を尊重した退院支援を行っていきます。

地域包括ケア病棟の開設に伴い、様々な疾患の患者さんを受け入れるようになります。そのため、幅広い知識が必要になりますが、当病棟には、経験豊かなスタッフが多く勤務しています。お互いがこれまでの経験を生かして、積極的な情報交換や勉強会を開催し、スタッフ全員がスキルアップできることを目指しています。

また、私たちは患者さんやご家族の思いや価値観を大切にしています。「家に帰りたいけど、できるだけ家族に迷惑はかけたくない」「もう少しリハビリをしてから、安心して退院したい」「家に戻ってきてほしいけれど、仕事もあるし、どうしたらいいだろう」というような思いを抱えている患者さんやご家族はたくさんいます。そのような思いに寄り添えるよう、普段から患者さんやご家族とのコミュニケーションを大切にしています。一人ひとり患者さんに合った退院支援や調整のために、多職種でカンファレンスを行っています。その中で、看護師は多職種間の中心となり、患者情報が共有できるよう調整する役割を担っています。

患者さんが安心して療養生活を送るためには、「切れ目のない連携」が大切です。患者さんの入院前の様子を把握し、地域で支えてくださっている方々とも連携しながら支援していけるよう頑張っていきます。そして退院される患者さんやご家族の「笑顔」のために、相手に寄り添い思いやりのある看護が提供できるよう日々努めていきます。



放射線科のご紹介

3.0T MRIが導入されました

放射線科医長 河合 陽
診療放射線技師 清水 史紀

当院ではこの度、最新鋭の3.0T（テスラ）MRI装置を導入致しました。

この装置は3Tの高磁場のもとで画像を作成することで、これまでより高解像度の画像を撮像することが可能です。

現在、既存の1.5T装置（GE社製）に加え、5月から3.0T装置（PHILIPS社製 Ingenia Elition）の稼働を開始し、2台体制での運用を行なっております。

MRI検査とは

MRI とは、Magnetic Resonance Imaging の略で磁気共鳴断層撮影装置と呼ばれ、強い磁場の中で、人体内の水素原子核に電波を与え、そこから発生した電波を受信し画像化する検査になります。

X線を使用しない検査になりますので、被曝の心配がありません。



3TMRI外観

3.0T装置の特徴について

- ・1.5T装置に比べ、より高精細な検査が可能です。これまでわかりにくかった小さい病変が鮮明に描出可能で、精度の高い画像診断が可能です。
- ・血管の描出においても、1.5T装置に比べて細い血管まできれいに描出が可能になりました。

検査環境について

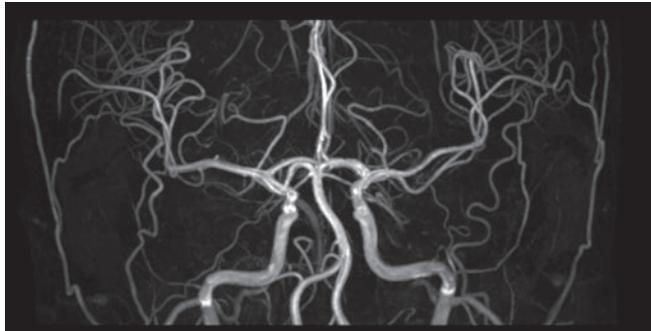
- ・装置の筒状の穴の直径が70cmと広くなりました。従来装置の60cmから10cm広くなったことで、圧迫感が解消されました。またLED照明で明るくなっており、検査中の工事現場のような大きな音もこれまでより軽減されています。狭いところが苦手な方でも、比較的閉塞感から解放される仕様になっております（閉所恐怖症がある方はあらかじめ、主治医の先生にご相談ください）。
- ・技術の進歩により、検査時間短縮が可能になりました。余力が生まれた分、画質の向上や特殊検査の追加など検討が可能になりました。

- ・腹部の画像検査は、長い息止めが必要となることが多いのが現状です。導入した装置は、息止めを短縮できるアプリケーションを搭載しています。息止めが苦手な方でも、負担を減らして検査を行うことができます。
- ・造影剤を使用しなくても血管描出が可能で、これまでよりもより細かい血管まで評価できるようになりました。アレルギーが心配な方や腎機能が悪い方でも安心して検査を受けることができます。
- ・3.0T装置は、検査部位、体内の状態によっては、検査に向かない場合があります。その時は、従来通り1.5T装置で有益な検査を行うことができます。

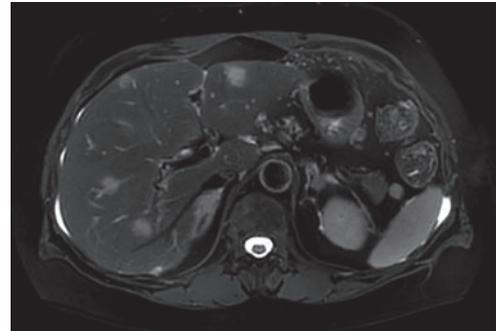
今回の導入により、地域の皆さまにより高度な医療を提供できるようになりました。

連携医の先生方を通じてご依頼いただいている検査にも積極的に最先端の撮影機器を開放してまいります。これまでより診断価値の高い画像を提供し、これまで以上に地域医療に貢献していきたいと考えています。

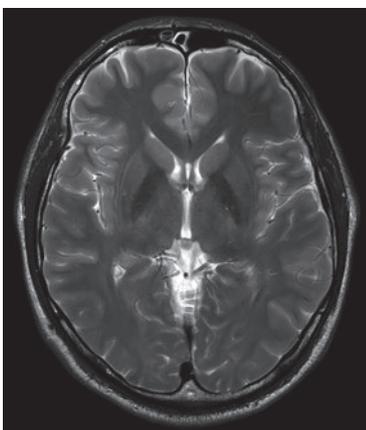
安心安全な検査を提供できるように取り組んでおります。皆さまからの検査依頼をお待ちしております。



▲脳血管



▲腹部



▲頭部



▲膝関節



▲手関節

臨床検査科・病理診断科のご案内

臨床検査科・病理診断科は病理診断科医長1名、臨床検査技師19名で生化学・免疫検査、血液検査、輸血検査、一般検査、生理検査、病理・細胞診検査、細菌・遺伝子検査を行っています。各診療科の的確な診断と治療を支援するために、迅速で精密かつ正確な検査を行うように努めています。臨床検査は、常に進歩しており、新しい技術を取り入れて高度のレベルを保つべく、研鑽に励んでいます。また、24時間体制で時間外の緊急検査にも対応しています。

検査業務内容

検体検査 (生化学・免疫検査、血液検査、輸血検査、一般検査)

検体検査では、様々な測定装置を用いて検査を行っています。検体到着後1時間以内での迅速な報告を目標とし、臨床側に精度の高い検査結果を提供しています。病気の診断、治療の効果判定、経過観察等、臨床側からの多様な要望に貢献しています。



生理検査

生理検査は、心電図、呼吸機能、超音波、脳波などの検査を行っています。患者さんと直接接し、生体の微弱な信号や波形を画像や数値にすることで評価を行います。また、24時間の心臓の状態を検査するホルター心電図や夜間の呼吸の状態を検査するPSG検査など幅広い分野で検査を行っています。また、昨年度からは24時間ホルター心電図も院内で解析を始め、迅速に結果を出せるようになりました。



病理・細胞診検査

病理診断科医長1名と細胞検査士2名で病理組織検査、細胞診検査、病理解剖を行っています。内視鏡や手術などで採取された組織や細胞から標本作製を行い、良悪性を判断しています。その後の治療に大きく影響を与えることから、迅速な報告が行えるよう努めています。



細菌・遺伝子検査

食中毒や肺炎、新型コロナウイルス感染症など様々な感染症の病原体の特定を行い、効果的な治療薬を選択するための検査を行う部門です。また、院内感染対策について情報発信も行っています。



医療法人社団 宮川内科

院長 大沼 沙織

当院は1985年に脳神経内科、循環器内科として宇都宮市北一の沢の地に、私の父、宮川洋輔が開設しました。父が75歳を過ぎた年度より午前中診療となり、縮小して診療を行ってまいりました。しかし、父が2019年12月に急逝し、長女である私が後継する形となりました。現在は、私と、夫の大沼広樹（火、土曜日）の二人で診療しています。子どもが小さいこともあり、午前中診療を継続しています。

二人とも神経内科専門医であり、神経症状を有する患者様を多くご紹介いただき、診察しています。頭痛、ふるえ、しびれ、物忘れなどの一般的な症状だけでなく、パーキンソン病などの神経難病の患者様も継続し診療しています。また、一般内科診療も広く行っており、二次予防だけでなく、心血管、脳血管疾患の一次予防も重要と考え、力を入れております。

脳神経内科診療は患者様一人ひとりの診察時間が長くなることが多く、患者数は多くないにも関わらず、待ち時間が長いのが特徴といわれています。当院も例外ではなく、□コミにも待ち時間が長いと書かれています。さらに午前中診療であることで診療時間に制限があるため、患者様にはご迷惑をおかけすることも多いかと存じますが、誠意をもって診療にあたっております。

高齢患者様が多いことから、現病、合併症の悪化により栃木医療センターの先生方には緊急～準緊急でのご対応いただくことが増えています。毎回丁寧に御診療、御加療いただき、大変感謝しております。今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。

神経疾患の性質上、緩徐でありながらも進行していくことが多く、高齢患者様も含め、現在の診療体制ではかかりつけ医でありながら、終末期まで患者さんを見届けることができないことに、もどかしい思いを抱えています。地域に根付いたかかりつけ医として、できることを模索していきたいと思っております。

今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。

ご案内

診療科目 脳神経内科、循環器内科

診療時間	月	火	水	木	金	土	日
8:40 ~ 12:00	●	●	●	×	●	● [※]	×
休診日	木曜、日曜 ※第2、第4土曜日						



〒320-0048 栃木県宇都宮市北一の沢町10-12 TEL 028-622-5787

特別メニュー毎日(平日)はじめました。

水・金の昼食に実施していた特別メニュー。

食事制限がなく、ご希望された方に1食あたり+100円(税別)でご提供しています。

5月からなんと…

月～金の昼食・夕食に大幅に拡大!!

～御品書き(一例)～



かき揚げ丼



穴子散らし寿司



牛丼



カツサンド



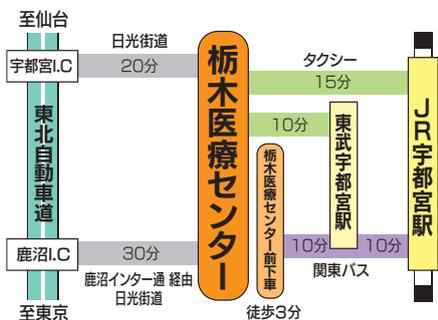
天ぷらうどん

当院の調理師が腕によりをかけて手作りしています!

入院生活のひとつの楽しみにしていただけるよう、引き続き取り組んでまいります。

栄養管理室

交通のご案内



発行人

独立行政法人国立病院機構

栃木医療センター

院長 田村 明彦

〒320-8580

栃木県宇都宮市中戸祭1-10-37

TEL. 028-622-5241

FAX. 028-625-2718

URL. <https://tochigi.hosp.go.jp/>

